在籍数
（2022年2月1日現在）

1年	男	81名
	女	77名（計158名）
2年	男	71名
	女	84名（計155名）
3年	男	80名
	女	78名（計158名）
合計	男	232名
	女	239名
	合計	471名

まつら

発行所
唐津市町田字大山田1992番地
TEL 0955-72-7184
佐賀県立唐津西高等学校振興会
発行人　川上　殉
編集人　振興会広報部会

「基礎力」「傾聴力」

佐賀県立唐津西高等学校　校長　吉山　耕一郎

日増しに明るさを増す朝夕の日差しに、新しい春の訪れを感じる季節となりました。

蛍雪の功なり、本日めでたく卒業される百五十八名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。この三年間は、皆さんのこれまでの人生の中で、最も変化に富み、成長を実感した期間であったことと思います。西高での皆さんのやる気と頑張りに敬意を表しますとともに、それを温かく見守り、今まで一心に支えてこられた保護者の皆様のお喜びは如何ばかりかと、心からお祝い申し上げます。

卒業生の皆さんは、平成三十一年四月十日の入学式時に「他人と過去は変えられない。自分と未来は変えられる」という言葉が贈られ、自分のあるべき姿を見つけること、志を持ち、志の実現に向かって前進してほしいという言葉で入学を許可されました。

一年次は、五月に、平成から「厳しい寒さのあと、美しく咲き誇る梅の花のような希望に満ち溢れた時代」（万葉集から出典）という意味の令和に年号が変わり、新しい時代を感じました。八月に、「創造の羽を広げ、蒼天へ舞　バルーンの如く」の大会テーマのもと、第四十三回全国高等学校総合文化祭（２０１９さが総文）が唐津市を含めて、佐賀県内各地で開催されました。本校の生徒も文化部に所属する生徒を中心に実行委員として活躍してくれました。また、十一月にふるさと唐津に対して誇りを持つためにご当地検定「からつ検定」を唐津商工会議所のご協力で初めて受検しました。この試みは新たな行事として定着し、今年で三回目となりますが、普段の授業では学べない唐津の歴史・文化・自然の魅力を再認識することができたと思います。

令和二年の二年次は、夏に２０２０東京オリンピックが予定され、本校ヨット部卒業生の岡田奎樹（けいじゅ）選手や南里研二選手の活躍に期待するとともに、数々の感動の名勝負をたくさん観ることができ、華やかな一年になるとみんな思っていたと思います。

しかし、新型コロナウイルス感染症による二度の臨時休業とオンライン授業、県総合体育大会の中止から代替大会ＳＳＰ杯の開催、双松祭の短縮、そして修学旅行の中止などすべてこの一年はコロナで終わったと言っても過言ではありません。でもこの感染症で「学校や先生、友人、家族との日常へ」の「期待と感謝」を感じたと思います。まさにＡＩの時代に「人間らしさ」「人間力」「人間性」の大切さを知ることができたと思います。

令和三年の三年次も、日本だけではなく、世界中が新型コロナウイルスのパンディミック（感染爆発）による対応に苦慮しました。海外ではロックダウン（都市封鎖など）、日本では緊急事態宣言の発令、この唐津市でも令和三年八月二十七日にまん延防止等重点措置が適応されました。このコロナ禍の新しい形の双松祭（体育大会）を三年生が中心となり、唐津西高校が「師弟同行」の精神のもと一致団結し、成し遂げることができたのは見事でした。感動しました。

このような三年間、卒業生は、総合型・推薦試験において国公立大学十八名合格及び唐津市役所などの公務員八名合格をはじめとする学習の成果は勿論、制約が多い中、「ヨット部男子の九州大会団体優勝」や「ボランティア部や女子バレー部の教育長表彰」などの部活動やオランダなど国際交流よるグローバル教育の推進、「唐津ロータリークラブ」「ＮＰＯ法人唐津環境防災推進機構ＫＡＮＮＥ」「からつ応援市場」「ゲンコウ復活プロジェクト」などの特別活動において地域社会から高い評価を得ることができ、本校の「地域社会の未来を担う志のある人材の育成」のスクールポリシーの礎を築いてくれました。そして何より、進学や就職という人生の節目「十八歳」である進路決定に際しては、最後まで諦めることなく、厳しい試験に耐え抜いて、挑戦してくれました。

こうした皆さんの姿は、部活動や学校祭での力強いリーダーシップとともに、西高「まつら」の伝統の中に、新たな一頁として書き加えられ、地域社会に貢献できる志と伴に、後輩たちがしっかりと受け継いでくれるものと信じています。

卒業生だけではなくあなた方は、Society5.0（超スマート社会）の実現に向けて技術革新、新型コロナウイルス感染症の戦いのなかに生きていきます。「人生一〇〇年時代」を豊かに生きていくために夢や希望を持ち、その実現のために取り組むたには、「双松の力」の中で、特に基礎・基本となる知識や技能を身につける力「基礎力」や相手の話に耳を傾け、熱心に相手の気持ちに寄り添いながら聞くことができ、本校の「地域社会の未来を担う志のある人材の育成」のスクールポリシーの礎を築いてくれました。そして何より、進学や就職という人生の節目「十八歳」である進路決定に際しては、最後まで諦めることなく、厳しい試験に耐え抜いて、挑戦してくれました。

こうした皆さんの姿は、部活動や学校祭での力強いリーダーシップとともに、西高「まつら」の伝統の中に、新たな一頁として書き加えられ、地域社会に貢献できる志と伴に、後輩たちがしっかりと受け継いでくれるものと信じています。

卒業生だけではなくあなた方は、Society5.0（超スマート社会）の実現に向けて技術革新、新型コロナウイルス感染症の戦いのなかに生きていきます。「人生一〇〇年時代」を豊かに生きていくために夢や希望を持ち、その実現のために取り組むたには、「双松の力」の中で、特に基礎・基本となる知識や技能を身につける力「基礎力」や相手の話に耳を傾け、熱心に相手の気持ちに寄り添いながら聞くことができ、本校の「地域社会の未来を担う志のある人材の育成」のスクールポリシーの礎

卒業される皆さんの前途が、朝、今日も頑張るぞという気持ちで希望を持ち、「明るい挨拶気持ちの良い挨拶」で始まり、「師弟同行」の気持ちで学び、働き合い、夕べにすべての人に感謝する希望に溢れた輝かしいものとなりますよう祈念しています。

第57回 新春読書感想文コンクール
井上花林さん　最高賞受賞

第57回新春読書感想文コンクールで、『モーティマー夫人の不機嫌な世界地誌』を読んだ２年の井上花林さんの作品「現代における知識の使い方を考える」が、2万4411点の応募の中から最高賞の佐賀県知事賞６点の中の一つに輝きました。

「今回このような賞をいただくことができ、驚きと嬉しさで胸がいっぱいです。SNSによる問題が相次ぐ中、モラル・マナー・言論の自由のラインは私の中でも永遠の課題です。知識があるからこそ、言葉と行動は抑えなければいけないことがあるのだと、この本を読んでより一層強く思いました。」と受賞の感想を語ってくれました。

賞状
佐賀県知事賞
佐賀県立唐津西高等学校二年
井上花林
あなたは第五十七回新春読書感想文コンクールにおいて審査の結果優秀な成績と認められましたのでこれを賞します
令和四年二月二十四日
佐賀県知事　山口祥義

贈ることば

唐津西高等学校振興会会長
川上　殉

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。
また、保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。

３年前の春、唐津西高校の登校坂をドキドキしながら歩き、ワクワクしながら自分のクラスを探した入学式から３年、唐津西校生として立派に成長された皆さんの卒業式に、振興会会長として送り出す事が出来、大変嬉しく思います。唐津西高校での3年間はいかがだったでしょうか？　楽しい思い出もあれば、辛く苦しい経験も沢山あったことと思います。本来ならば見えない恐怖に怯える事無く、３年間思う存分に勉学や部活動に打ち込んだり、楽しい昼休みにはいろんなところから笑い声が聞こえたりと、ごく当たり前の生活で毎日の学校生活を過ごしていけるはずでした。２年生の時は、臨時休校や高校総体の中止も経験しました。また、双松祭では開催規模を縮小して開催しましたし、幾度か実行出来そうだったのですが、残念ながら楽しみにしていた修学旅行も、最後まで行く事が出来ませんでした。今思えば、卒業生の皆さんは、新型コロナ感染拡大に翻弄された学年でしたね。しかし、その全てがこれからの皆さんにとってかけがえのない経験であり、そして財産になったことと思います。特に、この様なコロナ禍での学校生活を共に過ごした友は生涯の友人であり、一番の宝物だと思います。卒業して離れ離れになるかもしれませんが、これからもお互いを高め合う存在でいてほしいと思います。

卒業とは別れの時でもあり、新しい出会いの始まりでもあります。今後は、唐津西高校卒業生としてのプライドを持って自分の夢を、そして未来を切り開くべく、自分が選んだ新しい環境で頑張ってほしいと思います。

映画監督であられた故　大林宣彦さんの言葉に「人はありがとうの数だけ賢くなり、ごめんなさいの数だけ優しくなり、さようならの数だけ愛を知る」という言葉があります。周りの人たちとの関わりがあって学びがあり成長があります。これからも、皆さんに関わってくれた全ての人たちへの感謝の気持ちを忘れず、それぞれの目標に向かって邁進してください。皆さんのご活躍を期待しています。

最後に、吉山校長先生をはじめ、先生方、そして保護者の皆さまには、振興会活動に多大なご協力を賜りありがとうございました。今年度も、新型コロナ感染拡大などで翻弄された１年間でありましたが、無事に１年間振興会の運営が出来たのも、皆様のご協力のおかげです。今後とも振興会活動のご理解、ご協力をお願いいたします。